

副専攻名 建築学副専攻

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

建築学についての基礎的な素養を学び、自学類の学生には主専攻と合わせて幅の広い学識、自学類以外の学生には建築学に関する基礎的学識を持つための副専攻である。2年生では「建築学概論」により建築学全般にわたる概要を学び、3～4年次には、建築学に関する主要な専門科目として開講している科目群の中から学生の興味に応じて選択して学び、建築学の学識を深めるようになっている。なお、1級または2級の建築士試験の受験資格を獲得するためには、これらの科目の他に、建築設計演習の履修を含む必要科目の履修と修得が必要である。

副専攻の学習成果

- ・建築学の基本的考え方を理解し、主要な専門用語を説明できる。
- ・建築学における主要分野の学識を理解し、その概要を自分なりに説明できる。
- ・実際の建築物を見聞し、計画、設計、デザインのコンセプトを理解し、説明できる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期		後期	
				第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター
35031	建築学概論	1.建築学の基本的考え方を理解し、主要な専門用語を説明できる。 2.建築学における主要分野の学識を理解し、その概要を自分なりに説明できる。 3.実際の建築物を見聞し、計画、設計、デザインのコンセプトを理解し、説明できる。	2				○
35032	建築材料学第2	1.鉄鋼材料、高分子材料、歴青材料の基本的性質とその用途を説明する。 2.木質材料、石材、れんが材料、ガラス材料の基本的性質と用途を説明する。 3.各種仕上げ材料の種類と概要を説明する。 4.各種機能性材料の種類と概要を説明する。 5.特殊コンクリートのその施工技術を説明する。 6.建築用コンクリートの調合設計の手順とその設計・施工の要因との関係を説明する。	2				○
35045	建築計画	1.建築生産のプロセスの中での建築計画の役割について説明できる。2.建築計画に用いられる手法(規模計画、動線計画など)について説明できる。3.各種建物の建築計画について説明できる。	3	○			
35046	建築環境工学	(1)熱・空気・光・音などの物理的環境要素の基本的な特性を理解する。 (2)建築空間におけるこれら物理的環境要素をコントロールするための技術の概要を理解する。	3	○			
35047	建築設備工学	1.建築物に必要な各種の建築設備の具体的な内容を理解できる。 2.建築物に応じて建築設備や設計方法を適切に選択できる。 3.安全・衛生的かつ快適な環境を実現するために必要な建築設備の概要とその計画・設計法を提示出来る	3				○
35089	建築構造学A	木構造の基礎を学び、専門用語を理解する。さらに建築における静定構造物の構造力学の手法を習得する。	3			○	
35090	建築構造学B	鉄筋コンクリート造、鉄骨造、壁式構造、その他の構造物における基礎を学ぶ。不静定構造物における構造力学の手法を習得する。	3				○
35091	住生活学Ⅰ (環境デザイン学類開講)	住まいの変遷の基礎的知識を習得し、家族や住様式の変化と住空間計画の展開の関係を理解し、現在と今後の住まいのあり方について考察できる。	3			○	
35262	住生活学Ⅰ (地域創造学類開講)	気候風土など地域性と住宅の形態や住生活の関係について理解する。	2				
35092	住生活学Ⅱ (環境デザイン学類開講)	住居計画についての基礎的知識を習得し、住宅をとりまく現状と課題を理解する。	3				○
35263	住生活学Ⅱ (地域創造学類開講)	近年の家族やライフスタイルの変化による居住ニーズの変容と、それらに適合した住まいのあり方を理解する。	2				
35062	鋼構造学	1.鋼部材および鋼構造物の機能、種類、設計法に関する基礎を説明できる。 2.設計荷重および鋼材特性を概説できる。 3.鋼構造の接合(溶接・ボルト接合)の基礎を説明できる。 4.はり・桁構造の基本概念と設計計算・製作の流れおよび要点を説明できる。 5.種々の鋼構造設計の特徴について説明できる。	4	○			
35067	建築法規	建築基準法及び建築関連法について解説し、それらの理念、体系などについて理解し、必要に応じて、該当法制度を的確に参照できるようにすることを目標とする。	4	○			
35068	建築施工	1.木造建物の施工方法について説明できる。 2.鉄筋コンクリート造建物の施工方法について説明できる。 3.鉄骨造建物の施工方法について説明できる。	4	○			

各科目の「学生の学習目標」を達成することにより、「副専攻の学習成果」に到達します。

「住生活学Ⅰ」及び「住生活学Ⅱ」について、環境デザイン学類及び地域創造学類のどちらの科目番号で履修登録しても、副専攻修了要件に含めることができます。ただし、同一科目の重複履修は認められません。